

がん治療

最新の温熱療法導入

松波病院、副作用少なく

松波総合病院(羽島郡笠松町)は、高周波によって腫瘍に熱を加えて治療するがん温熱療法機器「アスク178」を1月に導入し、患者の治療を行っている。医療機器など製造販売の「庄内クリエイト工業」(山形県)が開発した最新の温熱療法機器で、同病院によると岐阜県内では初の導入。

がんの部位を狙って高周波を当て、加温することによって、42・5度以上の熱に弱いがん組織を壊死させる。目と脳以外の部位に適用でき、副作用が少ないという。治療時間は1回当たり40～60分。同病院がん治療センターの原武志センター長は「副作用が少なく、化学療法や放射線療法を併用すること

で、より高い治療効果が期待できる」と話した。
(長尾剛次)



導入したがん温熱療法機器＝羽島郡笠松町、松波総合病院